

令和7年度第1回 名張市地域公共交通会議

【議事概要】

日時：令和7年6月23日（月）

午後2時00分～午後4時45分

場所：名張市役所 1階 大会議室

出席者：（敬称略）

（1）委員

前田 尚三 （市民公募）

澤田 恭子 （市民公募）

古谷 久人 （地域づくり代表者会議会長）

岡田 美佐子 （名張市老人クラブ連合会女性部副会長）

山根 秀生 （名張市身体障害者互助会事務局長）

中平 恭之 （近畿大学工業高等専門学校総合システム工学科教授）

姫子松 伸浩 （近畿日本鉄道名張駅駅長）

川北 幸宏 （三重交通株式会社伊賀営業所所長）

前田 敦志 （一般社団法人三重県タクシー協会伊賀支部 支部長）

豊永 育子 （公益社団法人三重県バス協会）

尾上 義文 （三重交通労働組合伊賀支部支部長）

沢西 芳円 （伊賀建設事務所副所長）

福本 善彦 （名張警察署交通課課長）

森 慶之 （国土交通省中部運輸局三重運輸支局首席運輸企画専門官）

木村 禎志 （【代理出席】三重県地域連携・交通部交通政策課係長）

伊集院 時仁 （名張市都市整備部部長）

野口 泰弘 （名張市地域環境部部長）

出江 良隆 （名張市副市長）

（2）事務局

都市整備部 都市計画室 3名

会議の公開・非公開：公開

傍聴者：なし

1 開会

2 会長あいさつ

皆様、本日はお忙しいところご参集いただき誠にありがとうございます。本年4月に就任いたしました名張市副市長の出江でございます。

皆さま方におかれましては、日頃から、市政全般に格別のご理解、ご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

また、市内の公共交通に携わり、本市の公共交通政策にご賛同をいただき、それぞれのお立場でご尽力をいただいておりますことにつきましても、重ねてお礼申し上げます。

さて、報道にもありましたように、本年は新規事業といたしまして、薦原地域のコミュニティバスの再編として路線の再編及びデマンド交通の実証運行、また、交通分野と福祉分野において地域の移動手段の確保に関わる人材の育成事業を展開してまいります。令和5年度に新しい「名張市地域公共交通計画」を策定いただき事業をスタートさせ、本年はまさに再編実践のスタートの年となります。計画では、公共交通のあり方として、通院、買い物、通学等の日常的な移動の利便性向上はもとより、福祉、観光、環境等の他の分野や施策に必要とされている移動手段を連携、協働させながら、市内の拠点間、地域間をつなぐネットワークづくりを推進することとしております。地域交通の課題解決には名張市の地域づくり組織の皆様が自分事として捉え、地域住民の移動確保をどのようにしていくか議論し、それぞれの地域特性に合った再編が重要となりますが、名張市の住民自治の熟度の高さを活かし新たな仕組みが創り上げられることを期待しております。

新たな事業実施については皆様方それぞれの見地をもちよりより良い形に創り上げていくことが重要と考えております。

委員の皆さま方には、それぞれがお持ちいただいている知見を基にご意見をいただきますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

甚だ簡単ではございますが、会議開催にあたりましての私からのご挨拶とさせていただきます。

本日は議題も多く、長時間の会議となりますがどうぞよろしくお願いいたします。

3 議事

【協議案件】

(1) 役員を選出について (資料1-1~1-2)

「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」に基づく会議	「道路運送法」に基づく会議
(1) 副会長 1名 中平委員	(1) 会長 1名 中平委員
(2) 座長 1名 中平委員	(2) 副会長 1名 伊集院委員
(3) 監事 2名 古谷委員、沢西委員	

(事務局より資料に基づいて説明)

座長：私は、普段公共交通を専門としている。交通計画や交通渋滞、交通事故なども研究している。最近では犯罪者の関連も研究している。

先ほど紹介にもあったとおり、薦原地域の実証運行の案件がある。制約がある中でも同じことを続けていってもいけない、変える部分は変えないといけない。ぜひ皆さんの知見をお借りしたい。

委員：「活発で良い議論ができる会議のために。」を基に交通会議の意義を説明。

(2) 事業推進部会員の指名について (資料2-1～2-2)

【会長より指名】

質疑なし。

(3) 令和6年度事業報告及び収支決算について (資料3-1～3-3) ※資料3-1説明省略

(事務局より資料に基づいて説明)

(4) 事業進捗管理・評価について (資料4-1～4-5) ※資料4-3、4-4説明省略

(事務局より資料に基づいて説明)

委員：みどり号の中学生の運賃免除について、登校は時間的には合わないのではないかと。

事務局：普段の通学の時間帯には合っていないが、夏休みなどの長期休暇での部活等の登校時の利用を想定していると思う。

委員：はたっこ号について、片道しか使えない。唯一市立病院との乗り継ぎも昨年のナッキー号の時刻見直しで、乗り継ぎできなくなった。地域でも話して、要望書として上げた。乗り継ぎだけでもなんとか改善してほしい。10分程度、はたっこ号かナッキー号かがずらしてくれるだけの変更でいいのだが。

事務局：いただいたご意見は、はたっこ号の事務局からも聞かせてもらっている。事務局の方でも対応案を考えていると聞いている。

委員：ほっとバス錦について、福祉バスの受託事業がなくなるとの記述だが、こういった内容か。

事務局：名張市老人福祉センターふれあいへのバス（福祉バス）は全市的に走らせていたが、そのうち錦生地域については、ほっとバス錦が役割を担っていたが、福祉バス自体が令和6年度末をもって廃止となったので、ほっとバス錦への委託もなくなった。そうしたことで、委託収入がなくなり、経営が厳しくなっている状況である。

委員：ナッキー号の土日運行について、とても良かったという声を聞いている。評価としては、平日の方が土日に分散したと評価になっており、それはその通りだとは思いますが、土日でも買い物ニーズもあることから、続けてほしいという声も多く聞いている。今後の見込は。

事務局：乗り込み調査でも多く土日運行のニーズは聞いている。経費等を見ると続けていくのは難

しいが、貴重な意見としていただいております。

座長：いただいた意見の中では、否定的な意見はなかったと思う。本件について、本会議として承認としたい。

(5) 令和7年度事業計画(案)及び収支予算(案)について (資料5-1 ~ 5-3)

(事務局より資料に基づいて説明)

委員：バスから降りるときに「ありがとう」と言う。運転手も気持ちよくなる。そういう取組を広めてほしい。また、バスに乗る人は日々変わっている。実際にバスに乗って、乗っている人の状況を把握することが重要と思う。

事務局：お礼を言う取組、とても大切なことだと思う。各地域にも伝えておきたい。

座長：バスの利用者の変化は地域の変化につながっているので、そういった意味でも実態を把握することは重要である。また、バス降車時のあいさつは、大切なこと。そういったことをキャンペーンにしても良いのでは。

委員：赤目滝パークアンドライドの今年の計画は。

事務局：昨年度は秋に1回し、本年度は3回予定している。

委員：また日が決まったら教えてほしい。

座長：観光施策について、タクシー利用についてもぜひ考えてほしい。公共交通はバスだけではない。例えば、名張駅から赤目滝まで運賃がいくらかかるかを発信するなど。そういったPRもぜひ検討してほしい。

事務局：観光部局にタクシー利用についても情報提供したい。

委員：地元利用だけではバスの安定収入に繋がらないので、観光利用については積極的に検討してほしい。また、近鉄電車で連れてきた人をバスだけでなく、タクシーもうまく使うことで、観光客をより多く運ぶことができる。その中で、観光協会のホームページに名張駅や赤目駅からの移動手段に関する情報が少ないと感じる。タクシーの連絡先やバスの時刻表など、QRコードでもいいので、そういった情報を観光協会のホームページやチラシなどに載せる等、充実してもらいたい。

委員：ネットワーク会議については、地域別ワーキングとして、私も参加している。課題も各市町で共有している部分も多い。伊賀市では、ポケット版の時刻表があったりするので、そういったアイデアや情報を共有してもらえたら課題解決のヒントにつながると思う。

委員：ハイキングの需要などに合わせたバスのイベントも検討してほしい。新しい店舗ができていの中で、そういった店舗と連携（情報の共有・発信など）も検討してはどうか。目的地をもっと目立たせるような工夫も考えてほしい。

座長：市として、特定の事業者の情報を載せるのは難しいと思うが、広く募るなどの方法はあると思う。

～休憩～（15：45～15：55）

（6）ナッキー号利用促進事業（無料乗車キャンペーン）の実施について（資料6）

（7）ナッキー号の運賃見直しについて（資料7）

（事務局より資料に基づいて説明）

委員：運賃は無料にした場合は、市から補填するのか。

事務局：補填はない。

委員：無料乗車キャンペーンについて、9月3日に運賃協議部会をやるということで理解した。値上げについても、運賃協議部会を開催する理解で良いか。

事務局：その予定である。

委員：乗り継ぎ割引について、乗り継いだということはどのように確認するのか。

事務局：三重交通に協力いただきたいと思っているが、乗り継ぎチケットを乗り継ぎ前のバス運転手からもらう流れを検討している。

（8）薦原コミュニティバス「コモコモ号」の再編及びモビリティ人材育成事業について

（資料8-1～8-2）

（事務局より資料に基づいて説明）

委員：経費の内訳を教えてください。

事務局：公共交通対策事業費2788.6千円のうち、コモコモ号実証運行に係る経費として12,376千円（薦原への運行委託3,376千円、交通コンサルによる支援9,000千円）である。また、モビリティ人材育成事業は15,510千円である。薦原実証運行のうちの交通コンサル支援及びモビリティ人材育成事業は、受託業者をプロポーザル選考したいと考えており、現在事務を進めている。

委員：住民ドライバー何人を予定しているか。

事務局：4名程度確保されている。利用見込みは1日4回（2往復）を想定している。

委員：家まで行ってくれるのか。

事務局：集落は家または家の近くまで行く予定である。行き先は、集落内は家の前まで、集落外はコモコモ号のバス停までのよていである。

委員：帰りも時間予約するのか。

事務局：往復の予約を予約時に言う流れを想定している。ケースバイケースでの対応もあると思う。

委員：そのケースバイケースが多くなるのではないかと考えている。どこまで認めていくか。例えば、乗り合いをオッケーにするのかなど。

事務局：そういった点も含めて、実証運行で検証していきたいと考えている。

委員：双方向運行か。みどり号はそうしている。

事務局：往復利用しやすいように双方向運行を予定している。

4 その他

- ・次回会議について9/3（水）10：00～

5 閉会

会長：市民意識調査で交通に関する満足度が37%と非常に低い。多くの市民に満足していない。市としても公共交通充実していきたい。その中で、本日の会議でそれぞれのお立場で意見を出し合ってよりよい公共交通にしていこうということで、この会議の意義はある。

薦原地域で実証運行をするが他の地域でも同様に再編の必要がある。本日も色々な意見をいただいた。参考にしながら、コミュニティバスの再編として、市として取り組んでいきたい。また、観光振興としても意見をいただいた。鉄道やバスの活用が中心となる中で、タクシーの活用について、ご意見をいただいて、ごもっともと感じた。また、他の委員からもたくさん意見をいただいた。

本日はありがとうございました